



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	雜報
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 8, 323-324
Issue Date	1940-03
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/10692">https://hdl.handle.net/2115/10692</a>
Type	other
File Information	8_p323-324.pdf



# 雜報

## 法經會記事

本論叢第七輯發行以後今日に至るまでに、本會は七回の例會を開いて會員の研究報告を行つた。即ち左の如くである。

### 昭和十四年

- 第八十七回、三月二十三日、矢島武「滿洲移民に就て」
- 第八十八回、五月十六日、松田武雄「土地經濟學續論」
- 第八十九回、九月三十日、曾我孝之「興亞教育に就いて」
- 第九十回、十月十四日、南鐵藏「蝦夷島初期の農業發生史」
- 第九十一回、十二月二十日、荒又操「農村產業組合實踐の發展」

### 昭和十五年

- 第九十二回、一月二十七日、渡邊侃「經營規模と安定性」
  - 第九十三回、二月二十四日、高倉新一郎「朝鮮の印象」
- 猶會則の一部改正に伴ひ前會員早川、今田、池田、工藤の四氏の他に岡村、奥田、若木の三氏が新に會員となられた。これによつて會員總數は二十二名となり本會發展の基礎は益々強められることになつた。洵に喜ばしい事である。

(三月十一日)

## 寄贈書目録

法律時報(月刊)	日本評論社
主計會報告	海軍省主計會
同志社論叢	同志社法學會
研究論集	高岡高等商業學校研究會
國民精神文化(月刊)	國民精神文化研究所
零(小)賣物價	滿洲國經濟部商務司
卸賣(批發)物價	同
關西大學々々報	關西大學々々報局
關西大學研究論集	關西大學學會
經濟集志	日本大學商經學部商經研究會
民間傳承(月刊)	民間傳承の會
早稻田商學	早稻田商學同攻會
北海道經濟史研究	北海道經濟史研究所
日滿經濟論壇	日滿經濟調查局
滿洲經濟史紀要	關西學院大學經濟史研究室
大倉學會誌	大倉高等商業學校研究室
法學研究(東京商科大学研究年報)	東京商科大学
經濟學研究	立教大學經濟學部研究室
史學研究	廣島史學研究所
日本商業經濟講演集	日本商經研究所
明治學院高商論叢	明治學院高商學會
國際經濟研究	國際經濟研究所

大槻 正男

同

同

柏 祐賢

陸軍經理學校研究部

同

同

同

池田 善長

京都帝國大學  
附屬圖書館

戦後の農業經營問題

農業に於ける生産要素と資本概念

現戦時下の食糧問題

小作料の動向

我國に於ける代用品及廢品利用の現  
狀と其將來

ソ聯邦工蠶業の現勢

支那事變と本邦經濟事情

蘇領亞細亞の兵站並經濟地理

戦時農村社會事業の役割と動向

同大學一覽昭和十四年度

法經會論叢第七輯目次

我國統制經濟の現在と將來

入會權の實證的研究

北海道に於ける盜伐の個別的研究

臺灣と沖繩

南洋群島の土人政策

小學生を通じて行つた石狩支廳管内農家娛樂調査

明治維新前に於ける北海道耕種現象發展の年代的考察

ナチスの農業制度論

消費に關する方法論的一考察

蜘蛛巢理論覺書

中島 九郎

小林 巳智次

佐藤 昌彦

渡邊 侃

伊藤 俊夫

高倉 新一郎

南 鐵藏

川村 琢

松田 武雄

渡邊 侃

編輯後記

何よりも先づ本會名譽會員男爵佐藤昌介先生の御墓去に對し深甚なる哀悼を捧げねばならぬ。先生が我國農學界の開拓者として、農業經濟學界農業史學界に残された御功績の偉大さ、更に北海道帝國大學の育ての親として、北海道拓殖の指導者として遺された御足跡の大きさに就いては、今更此處に多辯を弄する必要がない。唯先生に最も關係の深かつた北大農業經濟學教室を中心として特に先生の御訓陶を辱ふつた、先生の後塵を拜する會員一同の哀惜たるや極りない。先生薨去せらるゝの日昭和十四年六月五日、享年八十有二歳。靜かに御生前の遺訓を追憶し、勉勵努力益々學界發展のため魯鈍を盡さん事を誓ふ次第である。

昨夏日本社會學會の大會が札幌で行はれ、會員の多くが之に參加報告し、昨秋又社會政策時報北海道農業特輯に會員の大部分が揃つて執筆したので、其後を享けた本誌の原稿の集りを懸念したが、是亦頗る好成績で、又も會員殆んど揃つて此大論集を送る事が出来た事は心から祝福に耐へない。戦時下の物資不足は此方面にも痛切に影響して、印刷の上にも幾多の難關が豫想されたが、幸に表紙に選擇の自由を缺いたのみで此大冊を刊行する事が出来た事は編纂に當つたものをもどれだけ樂にしてくれたか解らない。

東亞新秩序建設の大業漸くその緒に就かんとし、國家の總力を擧げて、未曾有の大理想の實現に邁進せんとする秋吾々學徒の使命は益々重且つ大なるを自覺する。本誌創刊以來既に八年其間取扱はれた問題は實に多岐に亘りそれら〴〵の方面に學界前進の役割を果して來たと信する。然し、次輯に於ては更に大きな發展を祈つて止まない。

(一部書圓四拾錢殘部僅少)